

## 亀嵩地区福祉振興協議会生活保健部 (財)日本公衆衛生協会表彰を受賞

亀嵩地区福祉振興協議会(会長 石原幸徳)の生活保健部がこの度、日本公衆衛生協会表彰を受賞しました。

同協議会は、平成5年に生活保健部を設け、健康づくり推進員や地区内の様々な関係機関と連携し、健康まつり、検診の受診率向上、公会堂での禁煙を図るなど地域内の健康づくりに大きく貢献されました。

おめでとうございます。

## いよいよ本体工事着工へ

### 尾原ダムで転流式

「平成のオロチ退治」と言われる尾原ダム建設事業のダム本体工事が来年度から着手されることに伴い、斐伊川の流れを変える転流式が十一月十五日、雲南市木次町平田のダム建設予定地において行われました。

転流では、上流部にある約五百四十戸の仮排水トンネルに斐伊川の流れを一時的に切り替え下流部に流します。

式典には、工事を担当する国土交通省、島根県、関係市町の代表者、地権者、地域の関係者などが出席し、斐伊川を堰き止め、祝いの酒樽を流し、川の流れが仮排水トンネルに切り替わったことを確認した後、くす玉割りや万歳などを

行い、転流を祝いました。平成三年から始められたこの大事業は、地元の方をはじめ多くの方の深いご理解と



▲ 転流を祝い、代表者によるくす玉割り

ご協力により、いよいよ今年度、ダム本体工事が発注され、平成二十二年度の完成を目指し建設が進められます。

## 斐伊川流域の小学生が交流 尾原ダム どんぐり・竹ポット 引き渡し式



▲竹ポットにどんぐりを植える小学生

本町の尾原ダム建設予定地、林原地内で十一月二十二日、斐伊川流域十二校の小学生約二百人が竹製の植栽ポットでどんぐりの苗木作りに取り組みました。

この取り組みは、ダム周辺の環境を守っていくとNPO、国、県及び関係市町などで行く実行委員会が実施し、二〇〇〇年から続けられています。

自分たちが作った「竹ポット」をそれぞれ持ち寄り、みんなですべてに植え、約一時間後には、六百個の竹ポットに植え込みました。

この竹ポットは、来年六月ごろまで育てられた後、児童たちの手によりダム建設現場周辺に植樹されることになっています。

児童たちが心を込めて植えたどんぐりは、将来、大きな森に育っていくことでしょう。

この日、上流域の奥出雲町、雲南市の小学生は、拾ってきたどんぐりを、下流域の松江市、出雲市の小学生は、